

● 事例紹介 ●

聖徳大学の生涯学習への取り組み

末崎 徹
(聖徳大学生涯学習課課長心得)

はじめに

聖徳大学の母体である学校法人東京聖徳学園は、本学園創立七五周年を迎えることとなった。幼稚園から大学院まで一四の機関を擁し、幼児教育、女子教育を中心に総合学園として歩んできたが、その中における生涯学習として、聖徳大学オープン・アカデミー（以下「SOA（ソア）」という）が組織されて、社会人の生涯学習支援と、地域社会への文化向上に資することを目的として平成四年に発足した。SOA公開講座は、これまでに通算四七期開講し、開講延べ講座数は約二七〇〇講座、延べ四三〇〇〇人以上



の方々に受講していただいている。生涯学習における講座は開設以来、本学キャンパス内で開講していたが、平成一七年四月に生涯学習社会貢献センタービルを松戸駅前に建設し、生涯学習の新たな拠点として再出発することができた。

公開講座に関する組織の概要

SOA公開講座の企画、立案、実施に関しては、本学生涯学習委員会において審議・検討を行っており、その生涯学習委員会の中に「特設講座・語学」、「保育・児童教育・心理」、「キッチンスタジオ」、「団塊世代向け」といったジャンルごとに四つの部会を設け、分野別の検討・講座の提案も行っている。本年はまた「源氏物語千年紀特別講座」を開設すべく部会としての意見の集約も現在進行中である。

またさらに、SOAの社会的要請に基づき将来計画に関する審議機関として、地域の行政関係者、学識経験者、後援会代表、学内関係者により構成されるSOA協力者会議を開催して幅広く意見を聴取し、講座運営に反映させている。

生涯学習活動の現状

一 常設講座

SOAでは、年間約四〇〇講座を開講しており、受講者数はⅠ期（春期）、Ⅱ期（秋期）、Ⅲ期（冬期）の三期にわたり、現在延べ約五〇〇〇名が受講している。

講座は年度によりテーマを定め、そのテーマに沿った講座内容をその年々に展開している。平成二〇年度は「きずな」を年間テーマとして定めており（平成一九年度は「家族」、親子や友人、高齢者や障害者と地域のなかでのさまざまな支えあいの大切さを講座を通じて深める機会となればと考えている）。

開講のジャンルは、「教育・心理」、「文学」、「生活・環境」、「社会・福祉」、「情報・ビジネス」、「芸術・文化」、「健康・スポーツ」、「語学」、「料理」、「特設講座」と多岐にわたり、受講生の要望もとりいれながら開設している。本学における中心的ジャンルは「語学」、「芸術・文化」、「文学」となっており、特に語学講座は延べ年間約一五〇講座開講し、延べ受講者数もおよそ二〇〇〇名に達している。ジャンルに関わらず直近の期で申込の多い講座は、

「楽しく作る太巻き祭ずし」、「やさしい懐石料理」、「おしゃべりに気軽にイタリアン」、「楽しく上達出来る書道」、「健康太極拳」となっており、取り上げる題材やテーマによっても受講生の動向は左右されている。

本学で開講している独自の講座は、作法室を使用した茶道講座、本学学内にある川並香順記念講堂に設置されているパイプオルガンを使用し演奏する講座、そして特筆すべきは生涯学習社会貢献センター内に独自の調理室（キッチンスタジオ）を設けていることであり、キャンパスまで赴かずとも調理講座の受講が身近で行える環境が整っている。調理の講座名も「男の料理教室」、「親子お菓子講座」などバラエティーに富んだ講座を展開している。また、高校生を対象とした「英会話講座」「心理学講座」なども企画し、高校生が大学の授業の一部を気軽に体験できるような講座も設けており、新しい年齢層にも目を向けてもらえる講座、企画も開設している。

二 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」委託講座の開設

本学では平成一九年度に、社会人の「学び直し」のニ

授業に盛り込み、本学の施設を使用して実践的な保育施設実習も取り入れている。このバックアップも、人材派遣会社への派遣登録、連携機関に求職情報を提供するなど、保育現場への就職支援の働きかけを積極的に行った。この保育ブラッシュアップ講座は平成二〇年度も継続して開設している。

昨年、「履修証明制度」が創設されており、今後、このような体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムを規定時間の中に組み入れることができるよう、講座内容、時間数を検討していきたい。

三 公開講座以外の運営

生涯学習課では、Ⅰ期～Ⅲ期の常設の公開講座の他に各種講座・講習の運用も行っている。

講座（講習）は、教員免許の免許法認定公開講座、文部科学大臣委嘱の司書・司書補講習、介護技術講習会を現職教員や社会人対象に実施しており、また夏期には現職の幼児教育者を受講対象として、スキル向上を目指した夏期保育大学を催している。さらに学内在学生を対象に英会話講座、管理栄養士国家試験対策セミナー、各種検定（漢字能

ズに応える実践的な教育プログラム二件が文部科学省より採択され、その講座を開設した。

一つは、子育てが一段落した女性を対象とし、既に取得している小学校教諭免許を再度活かしたい方々のブラッシュアップ教育を目的とした「再び女性が小学校で活躍するための学びなおし」教育支援サポータープログラム講座である。内容は、現場となる現在の小学校の問題解決に必要な技術・知識を学び直し、小学校や特別支援学校などを見学し、小学校の子どもたちの教育支援サポーターになってもらうものである。本学は公立小学校教員合格実績も高く、学外の有識者などによる「再チャレンジ学習支援協力会議」を設置して、講座修了者の小学校への派遣のバックアップも行い、一部の受講生は実際就職に結びつけることができた。

もう一つは、子育てから手の離れた女性や、眠っている資格の再活用を望んでいる保育士資格または幼稚園教諭免許状の取得者を対象に、実践的な短期集中講座を提供し、再就職やボランティア等の社会参加を支援していくことを目的とした、「子育てから手の離れた女性などのための保育ブラッシュアップ・資格再活用プログラム」である。本学教員、連携機関より派遣された講師が最新の専門知識を

力、秘書技能検定、色彩、書写技能等）も在学生支援の一環として執り行っている。

また平成二一年度からは現職教員等を対象とした教員免許状更新講習を開講する予定としており、本年はその予備講習を本学併設の専門学校との二会場で開催し、学習形態も通学形態のほか、通信教育での修得も可能とするなど連携しての開設を予定している。

四 年間行事

年度の初めの四月中旬、講座のスタートに合わせて「聖徳大学SOAオープンニングセレモニー」を開催している。このセレモニーでは、本学独自の算出による単位、六二単位以上の修得者に対して総合修了証を授与し表彰を行っており、また記念の文化講演も開催している。この講演はこれまで以上に智大名誉教授のアルフォンス・デーケン氏、遠藤周作夫人の遠藤順子氏など著名な方々を講師として招き、SOA会員受講者のみならず一般の来場者にも好評を博している。文化講演の他にも本学音楽学部教員によるミニコンサートなどが開催されている。また当日は無料体験講座も開催して講座への興味、理解を深めていただい

る。

さらに秋には講座受講会員による一泊二日の親睦旅行「SOA会員のつどい」を催している。毎年関東のなかでエリアを定め、史跡と自然、博物館、美術館等を組み合わせた箇所を訪れている。昨年は上毛三山地域へ、一昨年は茨城県北部を訪ね交流と親睦を図っている。

今後の課題

平成一九年度実施講座のアンケートによると、講座受講の満足度は九二・五%と高い割合となっているものの、不満足な項目のトップは「講座の内容」となっている（アンケート回答総数二二三七通）。講座の満足度向上のため開講講座の内容をさらに吟味するとともに、受講申込の際により正確な講座内容が解るよう、案内書へ情報を掲載するとともに、授業回数ごとに応じた授業内容の情報を盛り込んだ記載となるよう配慮したい。

本学における公開講座の受講者数は年々増加傾向で、平成一九年度は延べ受講者数が五二八五名（対前年比三%増）と順調に推移しており、この好調を維持継続させていきたい。

また、講座は每期約一四〇講座を開講しているが、さらに地域に根ざした、支持される講座づくりを心がけ、地域社会のコミュニティ連携を醸成する「まちづくり」へも貢献したい。

本学では「生涯学習」が生きる喜びに繋がり、より心豊かな人生をおくることの一助となるような講座づくりを指標し、受講者の知的欲求に応えながら新たなジャンル、新趣向の分野を模索して、一層の講座の充実、発展を目指したい。